

当時の少年は少年クラブ発足の口をちやんと知っていて、そして新しい本が到着する時間まで記憶して、その時間(夜六時頃)あたり(車庫)の一時居間を貸から台本市本屋の前は集まると少年達で東山のようであった。これは日本の少年だけでなく、台湾人の少年も参加していた。小生の知識の半分くらいは少年クラブおよび出版社の発行する本、マンガ、婦人クラブから来た知識である。小生の家は南河内郡茨木市で、特設世帯マンガ及び婦人クラブがわんざと積み上げてあったから、小学生の時はかたがはしからそれを読んでいた。小学校でも読書はいつも少年クラブのことだった。だからその学校のトランクの中のメモは小生にとっては、はてしなく興味深い物であった。

宮中で行われた朝庭の観覧試合に出場したところ、天皇のお休みになる所(すくそ)に、剣道場みたいの場所があって、そこで試合をしたこと、お昼の弁当はまっぴらな飯におかずはほとんど大きなたくわんが一本入っていて、そのたくわんがとてつもなくうまいたくわんであること、それ故にお昼が、今までは食べたことのない、けたまはすれにうまかつたこと等が書いてあった。



一日みて、講談社で朝庭がかかんで有名なところ(と)にうかがえた。写真を見せると、想像を絶する立派な写真で作られた建物と、全員ハット姿で写真を撮っていたのでこれが制服かなと想われた。今度、我が側生では、同出身有名人の傳記を出す由、その第一回目が講談社をたてた野間清治である由しみじみあの不世帯なトランクのことを思い出した。

さて、トランクをおあすかりしたくたんの積置中出陣の陣車將校はどつとしていらつしやるのだと云ふ。まだ保存物であろうか、御存命なら、ぜひお貸しして、あの時のお話をしたいと思つてゐる。

今まで撮影会では沢山の素晴らしい機、ふらふらの風、文芸雑誌本、各社雑誌、そして後援者、道員、などなど、すばらしい活動を続けて来ましたが、その中に大きな前進目標として記念館の開設が有ります。今まで大西さんを中心にして「第一歩活動」を、そして今因、すばらしい事だ、南小学校に我が専用の教室をお借り出来ました。この教室はまさに活動の拠点ともなり、よい上木格付動かし入れます。少し事を見やみますが、近い将来、南小では、のちろクラブで大西さん(6)年生が清治の人物研究を始め、竹田さんが4年生の児童たちと清治ゆかりの地域探検、原沢さんが講演会を、藤子桑さんが地域の人を巻き込み、講談社の愛情のこもつ

な手作りさうの教室をひらき、藤子桑さんを中心にして展示された教室では、地元カルフタを作り、たにか、歴史館も作りたいと、一掃になり活動をしている。笑いがあつたり小言があり、なにか楽しくてすつと夢を見続けたい気持ちです。実現に来年の二月はマラソンには野間清治生誕地の地という噴霧器がテレビで見られるかも。

さて現実に戻り、考えますと記念館は、地域に大切にされてゐる事、参加型であること、自立型であること、これは記念館が未来活動積極的な形ではなして、続ける為、非常に大切な考えです。この考えに沿つて準備も活動をすすめていかなければなりません。短く表現すると、原沢さんの活動は記念館の模範であり、少しづつと準備は必要の記念館そのものになつていくとも考

プロジェクト活動から

野間記念館建設準備室へ 神様の想ひ

リーダー 山口 耕一

えられます。
最後に記念館の開設は、事が成る時には必ず存在する神様の想ひがそのときとときに感じられ、必ず実現出来ること確信しております。そして、この事は野間清治撮影会がメンバー全員の力で作り上げていく事であり、準備室の活動もメンバー全員の力が必要で、これからの活動の中で、色々な助けをお願いいたします。

